



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051 JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Our Future Begins Today” 「私たちの未来は、今日より始まる」
“Respect Y’s Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「明日に向かって、今日動こう」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
「楽しい例会を」

2016年11月号

NO 483

何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。曲がった言葉をあなたの口から
退け、ひねくれた言葉を唇から遠ざけよ。目をまっすぐ前に注げ、あなたに対してのもの
にまなざしを正しく向けよ。
旧約聖書 箴言4章 23節～25節

ワイズ理解のツボ

11月の強調テーマは「ワイズ理解」です。これは東日本区独特のもので、給料だけもらって会社の内容や組織に関心のないサラリーマンは虚しい感じがします。ワイズメンも目的や仕組みを理解してこそ、楽しみも意欲も連帯感も増すのではないのでしょうか。しかしワイズ理解には適切な教科書がありません。何かあれば戻るべきは、区定款の第2条でしょう。しかしここをいくら読んでも、ワイズの生き生きとした立体像は浮かび上がりません。

戦前からのワイズメンで元国際会長の故鈴木謙介さんが、かつて、当時の日本 YMCA 同盟総主事塩月賢太郎さんと対談された時に、「私はまだワイズのことをよくわかっていないのであります。これからもっと勉強しなければ」と言われたのには、びっくりしました。ワイズ理解は、自分自身が創るものなのかと思いました。

私自身は、ワイズメンズクラブを知らない方に卓話をお願いするときに、次のように話します。「私が属しているクラブの例会で話をしてもらえませんか。YMCAの活動を応援している国際的組織で、毎月食事をしながら、卓話を聞いています」。これは、単なる例会の説明ですが、相手の質問に答えていくうちに、YMCAとの関係、キリスト教とのスタンス、国際との関係、事業内容、奉仕活動、楽しさが加わり、私なりのワイズ立体像が描けてきます。これが私の「ワイズ理解」です。

ワイズメンズクラブは、様々な顔を持っていますから、すべてを一度に納得することは出来ません。自分が興味があったり、好きな活動や集会に参加していると、だんだん他の活動が見えてくる可能性があります。目には見えませんが、思わぬ経脈でつながっているのでしょうか。「ワイズ理解」のツボは、積極的に参加すること、吹聴することにあると思っています。(吉田明弘)

WHOウォーキングのご案内

11月は、WHOの遠足です。開国の港、浦賀。その面影の残る街を歩きます。

期 日：2016年11月26日

コース：京急・品川駅ー浦賀駅ー荒巻稲荷ー浦賀ドックー西叶神社ー愛宕山神社ー為朝神社ー陸軍棧橋ー<浦賀の渡し> - 徳田屋跡ー東叶神社ー東耀稲荷ー八雲神社ー京急・浦賀駅

集 合：品川駅京浜急行横須賀方面行きホーム 午前9時30分 9時47分発三崎口きに乗ります。(堀之内乗り換え)

解 散：京急・品川駅午後2時半
携行品：昼食(集合前に準備)

飲料、雨具、敷物

参加費：300円+ガイド代300円
交通費・施設入館料は個人負担。初参加の方は、別に名札代として200円。

クラブ役員

会 長 高嶋美知子
副 会 長 篠原 文恵
書 記 本川 悦子
会 計 石井 元子
担当主事 宮崎 純

10月の記録		ニコニコ 9,310円	
在籍者数 18人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	432円
出席者数 12人	コメント 0人	ファンド残高	151,850円
メーカーシップ 1人	ビジター 3人	ホテル校ファンド	4,500円
出席率 76%	ゲスト 2人	ホテル校残高	40,373円
前月修正 -	出席者合計 18人	WHO参加者	33人

11月例会のご案内

**今月の強調テーマ： ワイズ理解、
ファミリーファスト**

今月は、元東京目黒クラブのメンバーでアイデアマン。いくつもの工業所有権を取得している加藤祐一さんをお迎えして、加藤さんが考案した折り紙を楽しみ学びます。ご友人をお誘いの上、ご出席ください。

日時：11月17日(木) 18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F 第2会議室

(杉並区荻窪 5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円(ゲスト、ビジター、メネット)

担当：A班(吉田、木原、篠原、鳥越、堀内)

HAPPY BIRTHDAY

21日 堀内 節子

開会点鐘
ワイズソング
聖書朗読・感謝
挨拶と紹介
会食

卓話 「エコにも災害にも強い カトー折り」
加藤 祐一さん

ワイズ報告
YMCA報告
スピーチ(ニコニコ)
閉会点鐘

受付 篠原 文恵
司会 鳥越 成代

高嶋 会長
一 同
吉田 明弘
高嶋 会長
一 同

高嶋会長他
宮崎 主事
一 同
高嶋 会長

—10月第2(事務)例会—

日時：10月27日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1階
第1会議室

<報告事項>

- ①10月のデータを確認した。
- ②10月の経常会計を承認した。
- ③会員の近況が報告された。

<協議事項・例会>

▲11月第2例会

日時：11月24日(木)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1階
第1会議室

▲12月クリスマス例会

日時：12月15日(木)

場所：荻窪周辺のレストランが候補として挙がった。会費は5,000円以内。会の内容は担当班が提案する。

担当：B班(神谷、河原崎、石井、宮崎、竹内)

▲12月第2例会

日時：12月22日(木)

場所：あんさんぶる荻窪 1階
第1会議室

<協議事項・例会以外>

- ①山田紀子さんの退会申し出を承認した。
- ②例会出席困難な会員について、

クラブとしての対応を協議した。クラブ会則との関連もあり、年内に結論を出す。11月の第2例会までに概要を決める。

③ブリテンの編集について協議した。企画と原稿依頼は早めに行い、編集の終了は発行月の前月末として。例会報告、WHO報告、第2例会などの例外を除き、原稿締め切りは、前月例会日とする。

④山手センターに設置されていた当クラブのロッカーがなくなり、国際クラブ認証状ほかの資料、記念品などが行方不明になっていることが報告された。関係者に協力を求め探すことにした。

⑤部から意見を求められている区定款改訂については、議論が進まなかった。

今後の行事予定

在京新年会 1月7日(土)

場所：山手YMCA

あずさ部評議会 2月11日(祝)

場所：山手YMCA

東西日本区交流会

2月4・5日(土・日)

場所：御殿場東山荘

(書記 本川悦子)

卓話者紹介
加藤 祐一(かとう・ゆういち)さん

1956年東京生まれ、日本大学生産工学部卒業後、日産自動車関連メーカーに入社し、開発を担当。35歳でセコムに転職し、同時に東京目黒クラブに入会し、50歳で退会。その後、紙を折っただけで紙同士をくっつける技を考案。水を入れても漏れない袋など多数考案し、カトー折りと名付ける。ecojapancup2009,2011で2回受賞し、ブログ「カトー折りペーパークラフトで広げるエコ」を始める。セコムのホームページにも掲載され、環境イベントに毎年出展し、学校の授業を2回経験。今年はそれらの活動が評価され、東京商工会議所からエコアワード大賞の優秀賞を受賞。ワイズメンJrで、小学生の頃からYMCA活動に参加した。



演奏を始める前に楽器(ヴィオラ)の説明



WHO : 広慶寺参道風景

面白い”オケラ”の世界 —10月例会報告—

10月例会は20日夜、あんさんぶる荻窪で行われました。ゲスト、ビジターの参加もあり、賑やかでした。卓話は、元・日本フィルハーモニー交響楽団ビオラ奏者の山下進三さんによる「オーケストラおもしろおかし裏話」でした。「私は福島県郡山市生で子ども時代を過ごしました」から始まりました。

[卓話要旨] 私は福島県郡山市生れで子ども時代を過ごしました。小学校3年生の時、母が先生に呼び出された。お宅の息子はクラスでうるさいのと、バイオリン教室に通うことを勧められた。日曜日に通うことになって、行くとお菓子もらえるのが楽しみで、バイオリンを手にすると落ち着くので練習を続けた。これが楽器との出会いであった。

地方の中学、高校を卒業して、武蔵野音楽大学に入り、卒業する1969(昭和44)年、日本フィルハーモニー交響楽団にビオラ奏者として入団した。ビオラを磯貝幸枝、ルイ・グレーラ、指揮を近衛秀麿に学んだ。

指導者に恵まれたが、待遇は良くなく、世間で働く同年齢にくらべて3分の1の低所得だった。そういうことが原因で、労働組合を結成して経営陣とやり合う場面もあった。

一方、楽団のメンバーと弦楽合

奏団を結成して、現在も活動している。指揮者としては、昭和大学管弦楽団、オルフェ合奏楽団を指導している。交響楽団退団後は、ビオラ演奏はもとより、指揮者としての活動を広げている。子ども時代を過ごした郡山では、小学校のオーケストラを指導して、毎年、全国コンクールで優勝している。数多く行った演奏会で印象に残ったのは、熊本県のある高齢者施設での経験。「五木の子守歌」を演奏したら、日頃無口のアルツハイマーの高齢者が、しゃべり出し、泣き声を出すという場面があった。このことで音楽の持つ力の恐ろしさと、今まで音楽を続けてきて良かったなあとつくづく感じました。(片平進一)

出席者:<メンバー>石井、大野、片平、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、山田(利)、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>久保田貞視・長谷川あや子さん(東京八王子)、村野絢子さん(東京目黒)、<ゲスト>山下進三さん(卓話者)、武藤聡子さん、<メイキャップ>宮崎(YMCA業務)

柿の実の熟す里、町田三輪 —10月WHO報告—

WHO ウォーキングの実施日は、原則として毎月第4土曜日。ワイズメン、YMCAメンバーとしては不都合なことが多くあります。今回は10月22日、あずさ部会とぶつかりました。

コースは、小田急線鶴川駅の南側の丘陵地。かなり自信のあるコースでしたが、参加者は33人。なじみのない地だからか、前回何か不手際があったのか、案内の文が魅力を伝え切れていなかったのか、一瞬考えるのは、いつものこと。でも歩き出すとすっかり忘れてしまうのもいつものこと。

隣駅の柿生の名が示すようにカキの実が目立ちます。奈良時代に奈良三輪から勧請した寺社が点在し、「柿食えば」の一句も浮かびます。

丘陵地だけに、ゆるやかな坂、のぞき込むような谷戸にくだる道、幹線道路以外は曲がりくねったり。古代からの道なのでしょう。それぞれに、秋の色をわずかに浮かべる木々や、野の花がこぼれていました。普段見ることのない、多くの野草が小さな花をつけているのに気づきます

遠つ世を語り伝へむ草の花
井関晴義

WHOの牧野富太郎博士が活躍するのもこの時季。何もない筈のところでも時間をとります。

コースの最南端にあたる大きな飛び石のある妙福寺、田んぼの中の参道の左右に小さな石造と釣鐘が並ぶ広慶寺を訪れました。農家の直売所のカキを爆買いして、バスで鶴川駅に戻りました。ワイズ関係参加者は、吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)、関(石巻広域)でした。(吉田明弘)



恵泉女学園大学名誉教授蓮見博昭さん

結成 20 周年あずさ部会報告

10月22日、第20回あずさ部会が東京山手クラブのホストのもと、在日本韓国 YMCA で開催され、70 余人が参加。次年度、大野貞次さんが部長に就任することもあって、東京西クラブから、張り切って7人が参加。今年はずさ部創立 20 周年の部会式典となった。

第1部の式典は、B1 ホールで、浅羽俊一郎部長の開会点鐘で始まり、浅羽部長の挨拶、ホストクラブの金本伸二郎会長の言葉、利根川恵子区理事の祝辞と続き、20 周年の祝賀ムードの中、厳粛に終了した。

第2部は、記念講演。恵泉女子学園大学・蓮見博昭名誉教授『アメリカ大統領選挙の最終章と日本』と題し、今、世界中が一番注目しているホットなニュースを解説された。

11月8日の選挙に向けてヒラリー氏とトランプ氏との熾烈な戦いが繰り広げられているが、ヒラリー氏が勝利に大きく前進、トランプ氏の巻き返しは難しい。トランプ氏の政策は、アメリカ的ナショナリズムの高揚と一般大衆の意見を重視する“ポピュリズム”。近年アメリカでも、格差社会が顕著になり、プアーホワイトと呼ばれる階層の増加がある。トランプ氏は、彼らの鬱積した不満を吸い上げ、政治に反映しようとしている。ヒラリー氏が勝利したとしても、トランプ氏の政策に指示した人が多数いる以上、彼らを全面的に無視することはできない。日本も選挙結果を真剣に見守る

必要があると提起された。

第3部は9階の大ホールに会場を移して、懇親会。ビュッフェスタイルの食事が並び各自が決められたテーブルに着席すると、食事感謝に続き、20周年を祝して乾杯。なごやかな雰囲気の中で宴が始まった。韓国料理がおいしく食欲が進み会場が盛り上がった頃、有志が前に集まり、浅羽部長の指揮で『もみじ』と『花の街』を輪唱。数回の練習の甲斐もなく、聞き手には、お気の毒な結果となる。続いて各クラブのアピール合戦となり、YMCA の歌を思い切り歌い、三本締めでお開き。めでたしめでたし…の部会でした。クラブからの参加は、石井、大野、神谷、神谷 M、篠原でした。

(石井元子)

WHOコース集の売上 LD児キャンプへ

『WHO が勧めるウォーキングコース 197』の売上 2 万円を山手センターが行っている LD (学習障がい) 児のスキーキャンプのために贈りました。

「コース集は、300 部印刷し、クラブで半分を買い上げ 40 周年の記念品とし、WHO は 150 部を参加者に配布し、一部を希望者に販売していました。

LD (学習障がい) 児のスキーキャンプについては、これまで毎年、応援をしていましたが、今年も、これまでの売上を送ることにしました。山手センターでは、1月に LD 児キャンプが行われます。

台北中央・肅東浩さん逝去

IBC 台北中央クラブ・肅東浩 (David Shao) さんが10月11日に逝去されました。81歳。肅さんはアジア地域会長をはじめ国際役員を務められ、英語、日本語、ピアノも巧み、飾らない人柄で人と人との橋渡しをされました。ご冥福を祈ります。(会長)

YMCA Today

▼10月の東京 YMCA の理事会、評議員会において、来年3月末に退任される廣田光司総主事の後任として、菅谷淳副総主事が選任されました。総主事就任は2017年4月1日で任期は4年です。

菅谷さんは当クラブの9月例会で卓話をされ、その親しみやすい人柄と楽しいスピーチが印象的だったと思います。東京 YMCA では英語学校の担当を長くされた後、とちぎ YMCA の総主事を務められました。そこでのワイズとのつながりが、ご自身にも家族にもとても影響が大きかったと語られました。

東京 YMCA は、東陽町会館の移転や、本部機能の移転などの課題がありますが、会員活動を大切にしたいとの願いをもって、これからは歩んでゆきたいと思っています。

▼旧聞に属しますが、恒例の国際協力街頭募金が、9月10日、新宿駅前で行われました。会員、園児、学生、ボランティアリーダー、ワイズメンなど162人が呼びかけた結果、146,684円が寄せられました。

募金は、主にバングラデシュ YMCA の子どもや若者を支える活動のために用いられます。ご協力ありがとうございます。

▼YMCA のブランド再生をテーマに、一昨年から全国の YMCA で「ブランディング」への取り組みが始まっています。昨年末に行なった10,000人のイメージ調査などの内外調査の結果や、そこから明らかになった課題から、今後、このブランドコンセプトに、YMCA の実施する活動や事業を照らし合わせ、一つひとつの質を改めて点検していくこととなります。来年10月には、全国 YMCA のブランドスローガンが示され、ロゴマークも統一される予定です。(担当主事・宮崎 純)

☆☆ インタビュー ☆☆ 村田 榮さんに聴く

* * *

村田榮(むらた・さかえ)さんは、那須クラブに所属。以前は、姫路クラブのメンバーでした。当インタビューとしては、初めての東西日本区クラブの在籍者登場です。



—元 YMCA スタッフだった方に登場願うのは初めてです。

「立派な先輩がおられるのに恐縮です。よろしくをお願いします」
—今は、YMCAの活動分野が広がっていますから、そこに就職する動機は、様々でしょうが、村田さんの場合は、いかがですか。

「姫路 YMCA 高校受験科(予備校)に1年間お世話になり、高校に進学後、高校生の野外活動リーダーとして参加をしたことが YMCA との最初のかかわりです。後に先輩スタッフから YMCA で働いてみないかとお誘いを受けて就職しました。担当は、東日本区ではなじみの少ない予備校業務でした。当時は、400名を超える生徒を抱えておりました」

—ワイズとのかかわりは。

「地方都市の YMCA の場合、ワイズにかかわらないことはあり得ないのです。最初は、ワイズのメンバーの方は雲の上の存在でした。姫路クラブが高齢化と活動が低迷してきた時にメンバー増強のために若い人たちに声がかかりました。同年代の10数人が入会をしました。私も1974年に入会し、翌年から約15年間担当主事をし、その後はメンバーとして参加していました。クラブは、

1982年度に日本区理事を輩出し、第34回日本区大会をホストするなど、活発な運動・活動を展開してきました」

—ワイズメンから刺激を受けることもありましたか。

「無報酬でのボランティア精神、行動力、実行力、洞察力、人との接し方等々、生きる上での指針を与えていただきました。感謝に堪えません。ですから今までワイズが続けてこれました」

—現在は、那須クラブですね。

「YMCA を1994年に退職、その後学校法人で学校事務をしていましたが、2010年メネットの実家の栃木県那須町に来ました。クラブにはそのまま属し、DBCの東京目黒クラブの例会でメイキャップしていました。那須クラブはチャーターした時から知っていました。アジア学院への奉仕が大きな柱であることも知っていましたが、月々の活動内容が伝わってこないのが参加することができませんでした。2012年1月にどうしても東京に行けない事情ができ、当時のとちぎ YMCA の秋田正人総主事に連絡したところ、那須クラブの例会があると判り、1月例会にメイキャップのために参加しました。その後は、両クラブの例会に参加し、同年4月に転会をしました。その後も東京目黒クラブには許される限り出ています」

—村田さんは、毎月、紀美子さんと車で上京して、東京目黒クラブの例会に出席され、同クラブの福島正さんの送迎もされています。

「福島さんは、YMCAの大先輩であり、大変お世話になったものですから少しでも恩返しが出来たらと考えています。那須クラブにとっても、外の空気に触れることによって、活動の幅が少しでも広がればと考えています」

—那須クラブの活動は、会員6人のクラブとは思えません。

「本当に6人のクラブとは考え

にくいほど活動範囲が広く、精神的に活動に参加・協力をされています。国際医療福祉大のユースリーダーがたくさんいます。教会関係者の協力・支援者によっての活動も続いています。ただ高齢化はいなめません。リーダーで那須地域に就職するが少ないことがネックです。YMCA スタッフが細切れのように変わってきたことも YMCA・ワイズに繋がれない要因であると思います。

アジアやアフリカの若い農村指導者の研修所であるアジア学院は那須クラブの心のよりどころです。クラブとしては、10月の同学院の収穫感謝祭への協力が一番大きいでしょうね。メンバーの個人的な奉仕(講師、役員、サポーター)もあります。ブリテンの発行が大きな働きをしています。地域の方々に親んでもらえるブリテンづくりを考えています」
—歯ブラシを、カンボジアに贈る活動もされていますね。

「1993年に姫路 YMCA の活動としてスタートし、94年にチャーターした姫路グローバルクラブの大きな働きになりました。那須に引越後は、紀美子と2人の個人責任で参加し、現地も訪問します。現在は、歯ブラシを贈る活動から歯みがき指導に活動の重点を置き、隣国ラオスの小学校へと活動が広がっています」

—東・西日本区に在籍されて何か違いを感じることはありませんか。

「両区の違いは概念的にはあると思いますが、根本的にはないと思います。どこに行ってもワイズ仲間として受け入れてくださることはうれしいですね」

—ワイズメンに対して期待することをお聞かせください。

「YMCA を支えると同時に、YMCA と共に地域に広がる活動をして YMCA ファンを1人でも多く作っていただきたいです」

—ありがとうございました。

(吉田明弘)

(C)高齢者の日常の運動

知っていて意外と実行されな
いのが実情。運動は百歳長寿実現
の鍵と云える。

「貝原益軒の養生訓」には、前
述の食後の歩行について勧めら
れるが、具体的な運動を進める箇
所は見当たらない。但し“気”の
滞りを避けるため、よく身を動か
し、「働くことが養生の基本」と
教えている。

「平成の養生訓」としての日常
の運動について具体的に述べる。

(1)高齢者の有酸素運動

低下していく呼吸循環機能の
低下を予防するために、有酸素運
動は必須。有酸素運動とは、筋肉
を動かすことで肺や心臓の働き
を活発にして、身体の新陳代謝を
促すエクササイズ。ジョギング、
早歩き、エアロビクスダンス、サ
イクリング、水泳等がある。これ
で末梢の毛細血管を活性化する。
普段の脈拍の1.5倍を超える程度

の運動強度が求められる。後期高
齢者には下半身を刺激するよう
な有酸素運動が最適で、階段の上
り下りや小さなジャンプが望ま
しい。基本はウォーキングで、難
しい場合は、椅子の背もたれに手
を添えて足踏みを楽しむだけで
も良い。プールの中の水中ウォー
キングも勧められる。

継続時間は20分以上と云われ
て来たが、1日3回に分割しても
効果はあると言う研究データも
出た。無理をせず、5分位からで
も、小さな積み重ねが、後期高齢
者の呼吸循環機能の維持に役立
つことを信じよう。

(2)筋トレ・ストレッチ体操

欠かせないのが関節や筋肉の
こわばりを防ぎ、転倒を予防する
この2つの体操で、高齢者の日常
生活にどれだけ有効かは、1ヶ月
実行すると分る。

朝夕の継続で、階段の手すり無
しの上下も、躓かない歩行も可能

になる。詳細はブリテン28年4
月号6頁の「卒寿を目指し90歳
代を生きるために」を参照。

(3)その他の運動として

誤嚥予防の嚥下機能訓練、咀嚼
機能訓練としての顔面筋の運動、
舌の体操、首の体操などが介護の
現場で行われている。自宅でもや
って見よう。

運動を怠る結果、筋力が低下し
て歩く早さが遅くなり、転倒しや
すい老人を「フレイル」(虚弱)と
呼び、更に筋肉量が減り「サルコ
ペニア」になり、「寝たきり」へと
進む。これでは折角の長寿も意味
がない。

運動は、80歳からでも始めら
れるが、60~70歳代から始めて
おくと、楽に始められ継続も容
易。よく歩く百寿者は、気付かぬ
うちに百歳だったというのが、調
査に応じた方々の一致したコメ
ント。「ローマは1日にして成ら
ず」である。

心は乱気流

鳥越成代

「もしもし、皆さん今どちら？」
「鳥越さん今どこ？」「近鉄奈良
の駅ビル」
「え！明日だよ！」「え！…」半
年前から高校時代の仲間と楽し
みにしていた「奈良行き」。主目
的はゴルフです。9月末のことで
した。

ホテルを確保し、観光案内所
へ。「春日大社、東大寺、興福寺
以外で、近くでお勧めの場所あり
ませんか？」「世界遺産の元興寺
とその旧境内であった、ならま
ちはいかがですか？」即決。奈良は
何回も訪れていますが、初めてで
した。商店街を抜け、猿沢の池を
まわって、その先へ。東門から中
へ、観光客はちらほら。赤みを帯
びた瓦が、飛鳥時代から今も現役
で葺かれているという極楽堂と

禅室。内部にある本尊「厨子入智
光曼荼羅(重文)」も、ゆっくり
拝観できました。古の時代に思い
を馳せながら、帰路、猿沢の池を
前景に見上げた興福寺五重塔の
堂々とした姿にほれぼれ。「明日
またね」思わず小さく手を振って
挨拶。ちょっといい気分。

翌日定刻に全員集合、何しろ修
学旅行で一緒だった友人達、男性
の中には東大寺でさえ、あれ以来
初めてという人も。そうです。高
度成長期、がむしゃらに働いてき
た年代です。「ここで写真撮った
ね」と同じ場所に整列。感慨にふ
けりながらなので、興福寺につい
た時は5時直前、あ~あ6年ぶり
の「五重塔、三重塔 国宝特別同
時公開」中なのにと思いながら、
その姿をちょっと恨めしく見上
げました。残念！昨日の帰りに
拝観しておけばよかった。

(鳥越成代)

編集後記

◇YMCAの現況を理解するため
に、今号から、「YMCA Today」
欄を新設して、担当主事の宮崎純
さんに執筆願うことにしました。
東京YMCAが策定した中期計画
では会員活動を活動の中心に位
置づけています。私たちは、もっ
とYMCAの活動を知る必要があ
ります。宮崎さんには、YMCA
活動に接する機会のない私たち
の関心や理解度に応じた情報提
供を期待しています。

◇竹内隆さんから、「卒寿を迎え
て少し時間に余裕が出来たので、
ブリテンで何かやることがあつ
たら」という嬉しいメールをいた
だきました。ブリテンの巻頭の聖
句を年間を通して選んでいただ
きたいとお願いし、考えていただ
くことになりました。これまで
は、編集担当が交代で適宜選んで
いました。(AY)